

第1章 環境基本計画

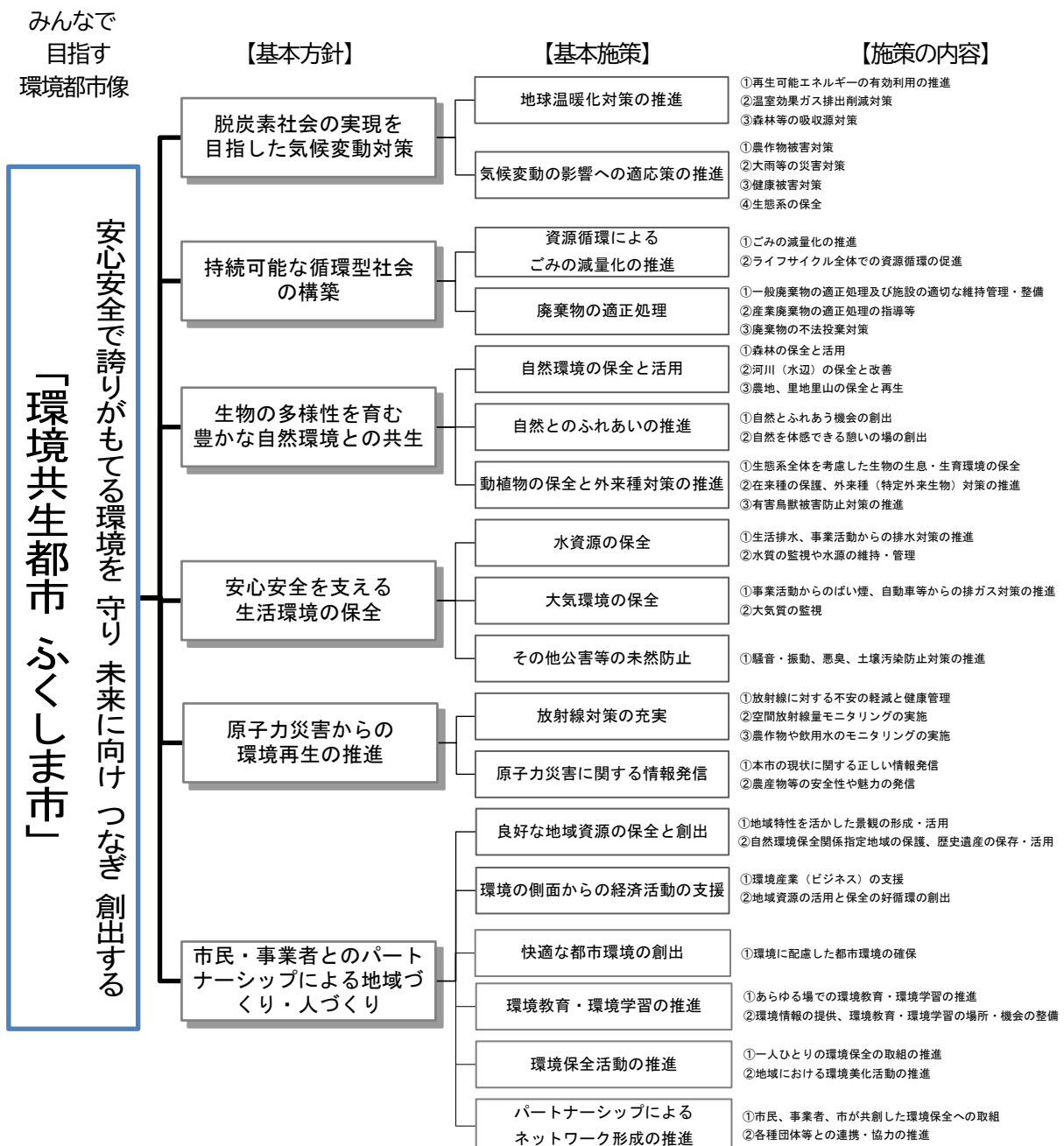
第1節 環境基本計画の概要

1. 計画の位置付け

本計画は、市の最上位計画である「福島市総合計画」を環境面から推進するためのもので、福島市環境基本条例の基本理念に基づき、市民、事業者、市が一体となって環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進することにより、本市の豊かな自然を守り、人と自然が共生し、環境への負荷が少ない快適で持続的な発展が可能な都市を目指すことを目的とします。

本計画の計画期間は、令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までの5年間です。

2. 施策体系



第2節 脱炭素社会の実現を目指した気候変動対策

1. 地球温暖化対策の推進

【目標】地球温暖化を食い止めるために、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの徹底を図ります。

地球温暖化は、私たちの日常生活や事業活動と密接なつながりがあります。温室効果ガスの中でも二酸化炭素は特に排出量が多く、温暖化への影響が大きいとされています。化石燃料由来のエネルギーの消費を減らし、再生可能エネルギーの導入を進めるとともに、一人ひとりのライフスタイルを見直すことで、温室効果ガスの排出量を減らすことができます。

本市では再生可能エネルギーの導入を促進するため、公共施設への再エネ設備の導入を進めているほか、一般住宅の脱炭素化に貢献する太陽光発電設備等の設置に対し助成を行っています。

また、エネルギーの効率的な利用を推進するため、自動車の適正利用や省エネ設備の導入などを市民に呼びかけるとともに、脱炭素化に向けたライフスタイルや事業活動の転換と普及を進めるため、クールシェア・ウォームシェアの取組を行うなど、省資源・省エネ型ライフスタイルの啓発に努めています。



福島市は令和3年2月にゼロカーボンシティ宣言をしました

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
公共施設への太陽光発電設備導入	市の施設（支所・学校等）において、太陽光発電設備の導入を進めています。 R4現在：導入済箇所数18箇所、最大出力（計）265.48kW	各課
再生可能エネルギー等施設整備資金利子補給事業	金融機関から融資を受けて、再生可能エネルギー・省エネルギー施設の整備をする中小企業等に対して、利子補給を行いました。 R4実績（利子補給件数・金額）：9件、754千円	環境課
省エネルギー設備導入支援事業	原油価格・物価高騰等の影響により、厳しい経営状況にある中小企業・小規模事業者の事業継続と経営改善、温室効果ガスの削減を図るため、省エネ機器更新の取組みを支援しました。R4実績（補助件数・金額）：108件、32,506千円	環境課
ごみ焼却による発電	ごみ焼却熱を利用し発電を行い、電力使用量の削減を図りました。 R4発電量実績：29,210,010kWh/年（前年度比3.1%増）	あぶくま・あらかわクリーンセンター
果樹剪定枝まきストーブ等マッチング事業	「ストーブ等の燃料として使用するまきを自分で調達したい」という方と、「果樹の剪定枝を引き取ってほしい」という果樹生産者の方、それぞれに登録いただき、市が両者を仲介する事業を実施しました。 R4実績：薪の提供者（生産者）23名、薪の利用者（受取人）114名	農業振興課
水素の利活用に向けた動き	水素社会実現に向け、「水素day&再エネまつり」を開催し、水素活用の普及促進を図りました。また、燃料電池自動車（FCV）の導入を支援しました。 R4実績（補助件数・金額）：2件、40万円	環境課
MOMORIN（ももりん）シェアサイクル事業	市内中心市街地に設置されたサイクルポートであれば、どこへでも自転車のレンタル・返却ができるサービスで、中心市街地へ公共交通機関で来られる方への二次的な交通手段として、また目的地までの最終移動手段として利用されています。令和4年度は、ポート増設（4箇所）や上屋の設置（2箇所）、キャリア払いの追加など利便性の向上を図りました。 R4実績：23,386回	交通政策課
生垣設置補助事業	市緑化基金を活用し、緑化を推進するため生垣設置に対し補助しました。 R4実績（補助件数）：3件	公園緑地課

2. 気候変動の影響への適応策の推進

【目標】 安心安全に暮らし続けられるよう気候変動に対する適応策を推進します。

温室効果ガス排出に関する対策を最大限に実施した場合でも、一定程度の気温上昇は避けられないと予測されており、気候変動は起こりうる事象として受け止め、それに適応できる地域を形成する必要があります。

このため気候変動対策として、温室効果ガスを削減する「緩和策」と気候変動の影響に備える「適応策」は車の両輪として、同時に推進していくことが重要です。

また、気候変動の影響は、地域によってその影響の種類も度合いも異なり、都道府県や市町村の境界を越えて発生することから、地域内の地方公共団体が連携して、地域の特性に応じた効果的な適応策を推進することが大切です。



出典：気候変動適応情報プラットフォーム

令和4年度には、気候変動の影響と適応策の理解を深め、環境に対する意識及びライフスタイルの見直しを促すため、市民向けの学習会や親子でつくるグリーンカーテン講習会を開催しました。



気候変動適応学習会の様子

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
気候変動適応学習会	市民を対象に「身近にできる適応策」についての学習会を行い、気候変動の影響と適応への理解を深めました。 R4実績（参加者数）：74人	環境課
気候変動適応に関する市民参加型モニタリング調査	気候変動適応東北広域協議会の共同調査として、生物季節観測のモニタリング調査を実施し、気候変動適応に関する基礎データの収集を行いました。 R4実績：桜開花日4月6日、モミジ紅葉日11月20日、イチョウ黄葉日11月20日	環境課
環境月間記念行事（6月）	・市の公共施設（支所、学校等）にグリーンカーテン用の苗を配布しました。 R4実績（配布箇所）：56箇所 ・環境省と連携を図り、市民を対象に「親子でつくるグリーンカーテン講習会」を開催しました。 R4実績（参加者数）：19人	環境課
気候変動適応東北広域協議会	令和2年度から令和4年度の3か年をかけて、行政機関や学識経験者等と適応策に関する意見交換を行い、広域アクションプランを策定しました。	環境課

【進行管理指標】

	基準値	実績値	目標値		令和4年度 目標に対する 進捗率	評価
	令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和7年度		
温室効果ガス実質 排出量	2,149千t-CO2 (平成29年度)	1,894千t-CO2 (令和2年度)	1,994千t-CO2 (令和2年度)	1,761千t-CO2 (令和5年度)	100%	A
エネルギー自給率 (電力)	30.8%	41.5%	32.9%	35.0%	100%	A
防災メールマガジン 登録者数	約5,400人	6,970人	7,240人	10,000人	85%	B
渋川ほか8河川改良率	67.0%	76.8%	70.4%	75.7%	100%	A

【進行管理指標の進捗状況】

本計画の進行管理指標について、下記算定方式を用いて、それぞれの進捗率を算出後に評価区分に従い評価を行います。

なお、指標によっては下記に当てはまらない場合があります。

①進捗率の算定方式

$$(\text{評価年度実績値} - \text{基準値}) \div (\text{評価年度目標値} - \text{基準値}) \times 100(\%)$$

②評価区分

A評価：進捗率100%以上 B評価：80% ≤ 進捗率 < 100% C評価：60% ≤ 進捗率 < 80%

D評価：進捗率 < 60%

③年度ごとの目標値の設定方法

目標値から基準値を差し引き、計画期間（5年間）で除する。

<例> 指標名：防災メールマガジン登録者数

基準値：約5,400人、目標値（令和7年度）：10,000人

各年度の目標値：10,000人 - 約5,400人 = 4,600人、4,600人 ÷ 5 = 920人 / 1年当たり

【R3】6,320人 【R4】7,240人 【R5】8,160人 【R6】9,080人 【R7】10,000人

【関連するSDGsのゴール】



第3節 持続可能な循環型社会の構築

1. 資源循環によるごみの減量化の推進

【目標】ライフサイクル全体での資源循環により、ごみ減量化を推進します。

本市の特性に応じたライフサイクル全体での資源循環を促進するため、ごみ減量大作戦の取組を継続し、更なるごみの減量化・資源化を図りました。

令和4年度は、ごみ有料化の検討、リユース・リサイクル推進を目的として古着等の臨時回収を行ったほか、事業系ごみの組成調査をもとに食品ロス削減を目的として事業所と連携した「てまえどり」の推進や、適正な分別排出の呼びかけを行いました。



「てまえどり」推進の様子

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
古着のイベント回収	古着の資源化を図るため、イベント回収を実施しリユース事業に取り組みました。 R4実績：開催回数 2回、回収量 合計3.6t	ごみ減量推進課
段ボール製コンポスト活用事業	「生ごみ」の減量化・資源化を図るため、初心者でも気軽に始められる段ボール製コンポストを活用し、購入費助成事業等を実施しました。 R4実績（助成件数）：305件	ごみ減量推進課
食品ロス削減アドバイザーの設置	「生ごみ」の減量化を図るため、食品ロス削減アドバイザーを設置しています。令和4年度は、市内各大学を中心に食品ロス削減パネル展を実施し、若い世代への啓発を図りました。また、エコクッキング動画を公開しました。 R4実績：食品ロス削減パネル展 6回、エコクッキング動画公開 3本	ごみ減量推進課
家庭用剪定枝破砕機貸与事業	「草枝類」の減量化・資源化を図るため、家庭用剪定枝破砕機貸与事業を実施しました。 R4実績（貸出件数）：69件	ごみ減量推進課

2. 廃棄物の安定的・効率的な適正処理

【目標】快適な暮らしを守るために、適正な廃棄物の処理を推進します。

ごみの適正排出と安全で効率的な収集運搬を進めるとともに、中間処理施設や最終処分場を適正に運営しています。

本市では、これまで使用していた一般廃棄物最終処分場（金沢第二埋立処分場）の残余容量が少なくなってきたことから、新たに最終処分場の建設を進め、令和4年2月に完成、同年6月から供用を開始しました。



大館山一般廃棄物最終処分場全景

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
大館山一般廃棄物最終処分場建設	計画的な施設整備を進め、令和4年2月に完成、同年6月に供用を開始し、適正な最終処分の推進を図りました。 なお、令和4年度は、搬入道路の道路台帳整備等を実施しました。	環境施設整備室
あぶくまクリーンセンター焼却工場再整備事業	施設の老朽化が進んでいるため、一般廃棄物の安定的な処理へ向けて焼却工場の再整備を進めています。費用対効果の高い施設となるよう計画的な施設整備を進め、環境影響評価、発注者支援事業を実施しました。また、公募型プロポーザルの手続きを進めました。	環境施設整備室
産業廃棄物処理業者等への指導	産業廃棄物処理業者（収集運搬業及び処分業）等への許可、排出事業者や処理業者への立入調査・指導等を行い、適正処理の徹底を図りました。 R4実績（立入調査・指導等回数）：61回	廃棄物対策課
不法投棄パトロール	不法投棄監視員によるパトロールや不法投棄事案等に関する通報に迅速に対応し、不適正処理や不法投棄の未然防止と早期発見に努めました。 R4実績（パトロール回数）：252回	廃棄物対策課

【進行管理指標】

	基準値	実績値	目標値		令和4年度目標に対する進捗率	評価
	令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和7年度		
1人1日当たりの生活系ごみ排出量（資源物、集資源回収量を除く）	770 g	671 g	530 g以下		41%	D
事業系ごみ排出量	30,926 t	29,737 t	24,200 t以下		18%	D
最終処分量	16,860 t	14,355 t	13,300 t以下		70%	C

【関連するSDGsのゴール】



第4節 生物の多様性を育む豊かな自然環境との共生

1. 自然環境の保全と活用

【目標】自然環境の保全と活用により、自然が有する機能や魅力の向上を図ります。

豊かな生物多様性に支えられた生態系は、人間が生存するために欠かせない恵みをもたらしています。本市にはすぐれた自然が数多く残されており、生物多様性を育みながら、自然環境を保全し、活用していくことが重要です。

水林自然林は本市西部の荒川沿いに位置し、市民が身近に自然体験できる場として利用されています。また、近年ドラマのロケ地としても利用されたことから、多くの市民が訪れています。



阿武隈川サミット

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
水林自然林事業	山野草・野鳥の案内、森のアートづくり、フォトコンテストを開催し、身近に自然体験できる場として広く利用を提供しました。令和4年度の延べ利用者数は38,351人で、前年度比11%増加しました。新型コロナウイルスによる行動制限緩和に伴い、利用者が増加したものと考えられます。	農林整備課
森林環境交付金事業	市内小学校に対し、森林への理解を深め、森林保全への意識醸成を図るため、森林環境学習に必要な経費を補助しました。 R4実績（森林環境学習校数）：39校	農林整備課
阿武隈川サミット	流域の自治体との連携により各種事業を行い、河川環境保全意識を高めました。令和4年度は、阿武隈川春のサイクリングなど3件の事業を実施しました。 R4実績（参加者数）：阿武隈川春のサイクリング 37人、阿武隈川源流探検 18人、舟にのって学ぶ阿武隈川 in 丸森 42人	河川課

2. 自然とのふれあいの推進

【目標】自然とのふれあいにより、健康で心豊かな暮らしの充実を図ります。

各種講座やイベントなどを通じて自然とふれあう機会を創出することで、自然に対する知識と理解を深め、環境保全への意識を高めます。



小鳥の森での学習活動の様子

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
小鳥の森事業	自然観察会、外来種捕獲大作戦、生き物のすみかづくり、ふくしま探鳥会を開催し、野鳥等の自然観察の場として広く利用を提供しました。令和4年度の延べ来場者数は12,398人で、前年比4%増加しました。新型コロナウイルスによる行動制限緩和に伴い、利用者が増加したものと考えられます。	農林整備課
花見山公園周辺環境整備事業	花見山観光振興協議会と連携し、景観植物の植栽や休耕地の草刈り、老木化した花木の更新など原風景の維持を図りました。 なお、令和4年度は、コロナ禍ではあったものの、観光需要の回復により来客数が増加しています。 R4実績（延べ来客数）：約59,000人（前年比151%増）	観光交流推進室

3. 動植物の保全と外来種対策の推進

【目標】 生物多様性の保全を図り、生態系の機能の維持・向上を図ります。

生態系全体を考慮した生物の生息・生育環境を保全するとともに、在来種を保護し、外来種（特定外来生物など）への対策を進める必要があります。

また、有害鳥獣（サル、クマ、イノシシ、カラスなど）による被害を軽減するための対策を進めています。



特定外来生物（アライグマ）

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
特定外来生物駆除	特定外来生物について、市民からの被害連絡を受け、駆除しました。 R4実績：アライグマ9頭	環境課
有害鳥獣被害対策事業	野生鳥獣による農作物被害を防ぐため、捕獲、見回りの強化を実施しました。 R4実績（捕獲数）：ニホンザル189頭（前年比36%増）、 イノシシ1,050頭（前年比38%増）	農業企画課
保存樹木補助事業	保存樹の維持管理に要する経費の一部を補助しました。 R4実績（補助件数）：33件	公園緑地課

【進行管理指標】

	基準値	実績値	目標値		令和4年度 目標に対する 進捗率	評価
	令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和7年度		
民有林整備面積	148.7ha	246.0ha	182.0ha	232.0ha	100%	A
多自然型工法河川整備延長	24,173m	24,316m	24,206m	24,257m	100%	A
新規就農者数	145人 (平成28～令和2年度の5年間)	69人 (令和3～4年度の2年間)	80人 (令和3～4年度の2年間)	200人 (令和3～7年度の5年間)	86%	B
農用地利用集積面積	1,066ha	1,194ha	1,186ha	1,366ha	100%	A
自然観察会、自然体験講座等の開催回数	250回	280回	毎年250回以上		100%	A
都市公園面積	321.65ha	321.88ha	322.25ha	323.17ha	38%	D
一人当たりの都市公園面積	11.65㎡	11.94㎡	11.75㎡	11.90㎡	100%	A
特定外来生物捕獲数	未集計 ※参考 12頭 (令和2年度)	9頭	年間10頭		90%	B

【関連するSDGsのゴール】



第5節 安心安全を支える生活環境の保全

1. 水資源の保全

【目標】健全な水資源を維持し、安心安全な水資源を育みます。

生活排水や事業活動による排水対策を進め、水質や水資源の維持を図っています。

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
河川水質調査	市内を流れる河川の水質調査を毎月実施しました。 R4実績（箇所数）：17 河川23 地点	環境課
浄化槽設置整備事業	生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するため、浄化槽を設置する個人に対して費用の一部補助を実施しました。 R4実績（補助件数）：181 件	下水道総務課
公共下水道事業	生活排水処理のため公共下水道の整備を図り、阿武隈川流域の河川水質保全を図りました。 R4実績：処理区域人口 181,234 人、普及率 67.3%	下水道建設課

2. 大気環境の保全

【目標】良好な大気環境を維持し、市民の暮らしや健康を守ります。

事業活動からのばい煙や自動車等からの排出ガス対策を進め、大気質の監視を行っています。

令和4年10月には、国が実施するエコ通勤（公共交通の利用促進、徒歩・自転車通勤の推奨、在宅勤務、時差出勤）に県、民間事業者等と連携して取組を推進し、市内の渋滞緩和や環境改善を図りました。

また、公用車の更新時にクリーンエネルギー自動車の導入を検討し、EV車2台、HV車4台を導入しました。



出典：福島県渋滞対策連絡協議会

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
TDM関連事業	国が実施するエコ通勤に県、民間事業者等と連携して取り組みを推進し、CO2の削減を図りました。	交通政策課
酸性雪調査	東北都市環境問題対策協議会の共同調査として、東北地方の酸性雨の動向を把握するために、地域特性を活かした酸性雪調査を市内3箇所で行いました。 ・福島消防署 pH5.9～6.0 ・福島市民家園 pH5.0～6.8 ・福島県保健衛生協会 pH5.6～6.1	環境課

3. その他公害等の未然防止

【目標】 公害等の未然防止に努め、快適で安全な生活環境を確保します。

騒音・振動、悪臭、土壌汚染防止対策を行い、公害の未然防止に努めています。



事業場排水の水質検査の様子

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
騒音・振動調査	市内で発生する様々な騒音・振動について調査を実施しました。令和4年度に基準値超過地点等は次のとおりです。 ①環境騒音調査（8地点）……………なし ②自動車交通騒音・振動調査（点的評価：12地点）……2地点 ③高速自動車道騒音調査（3地点）……………なし ④東北新幹線鉄道騒音・振動調査（7地点）……7地点 ⑤自動車交通騒音・調査（面的評価：3路線）…なし	環境課
ダイオキシン類実態調査	市内各所でダイオキシン類実態調査を実施した結果、基準値を超過した地点はありませんでした。 ①公共用水域（3地点）、②地下水（1地点）、③土壌（1地点）、④大気（1地点）	環境課
公害苦情相談	市民から寄せられた公害苦情相談について、個別に必要な調査、指導及び助言等を実施しました。 令和4年度の公害苦情件数は38件で、前年から2件増加しました。	環境課

【進行管理指標】

	基準値	実績値	目標値		令和4年度目標に対する進捗率	評価
	令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和7年度		
汚水処理人口普及率	87.2%	89.4%	89.1%	91.0%	100%	A
河川のBOD値環境基準値・環境基準準用値達成地点数	8/8 12/15	8/8 14/15	8/8 12/15		100%	A
光化学スモッグ注意報・警報の発令数	0件	0件	0件		—	—
本市では、法及び条例による改善勧告・命令を行わなければならないような公害の発生が無い状況が続いています。今後もこの状況を継続することを目標とします。	公害なし	公害なし	公害なし		—	—

【関連するSDGsのゴール】



第6節 原子力災害からの環境再生の推進

1. 放射線対策の充実

【目標】 不安を感じることなく、健康で安心な暮らしのために、放射線対策の推進を図ります。

本市では、放射線に対する不安を軽減するため、健康づくりや放射線量等のモニタリングを実施しています。公共施設や教育施設等で環境放射線量の測定を継続しているほか、測定結果等を市民に公表しています。

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
環境放射線量測定	公共施設を中心に年6回にわたり空間放射線量の定点測定を実施・公表しました。また、空間線量の全体的・局所的な状況を可視化するためメッシュ方式による全市放射線量測定マップを作成・公開しました。 R4実績（測定箇所）：各支所等 160 箇所、マップ 3,301 地点	環境課
食品等放射能簡易測定	市民持ち込みによる出荷・販売を目的としない食品中の放射性物質濃度の測定を市内11箇所の測定所で実施しました。 R4実績（測定件数）：2,194 件	環境課
市産農産物（出荷物）の放射性物質検査	出荷・販売を目的とする市産農産物（園芸品目）について、全戸全品目の放射性物質検査を実施しました。 R4実績（検査件数）：9,782 件	農業振興課

2. 原子力災害に関する情報発信

【目標】 正しい情報を市内外に発信し、風評払拭や本市の魅力をPRします。

本市の現状に関する正しい情報発信を行い、農産物等の安全性や魅力を発信する取組の一つとして、「放射線対策ニュース」を年3回（7月、11月、3月）発行しました。

また、本市産農産物の魅力と安全性を県内外へPRするため、福島駅前通りを歩行者天国にして対面販売を行うイベント版とオンラインショップを通じて生産者と消費者の「つながりの場」となるウェブ版の2通りで「福島駅前軽トラ市」を開催しました。



福島駅前軽トラ市開催の様子

【進行管理指標】

	基準値	実績値	目標値		令和4年度目標に対する進捗率	評価
	令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和7年度		
放射線に関する健康講座受講後の不安軽減率	88.9%	85.5%	90.1%	92.0%	0%	D

【関連するSDGsのゴール】



第7節 市民・事業者とのパートナーシップによる 地域づくり・人づくり

1. 良好な地域資源の保全と創出

【目標】福島らしい景観や歴史文化を守り、育むことにより、本市の個性や魅力を創出します。

「福島市景観まちづくり計画」に基づき豊かな自然景観を保全し、地域特性を生かした景観の形成・活用に努めています。また、文化財や歴史遺産の保存・活用を図り、文化や歴史とふれあうことができる地域づくりを進めています。

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
埋蔵文化財啓発事業	じょーもびあ宮畑春の陣・秋の陣、ゲーム感覚の土偶カード集め、エントランスホール事業を開催し、宮畑遺跡をはじめ、市内遺跡の啓発事業を推進しました。 R4実績（延べ参加者数）：45,516人（前年比 36%増）	文化振興課

2. 環境の側面からの経済活動の支援

【目標】環境の側面から経済活動を支援し、地域資源の保全、価値の向上に努めます。

環境に配慮した設備等の導入を支援するとともに、エコ商品の利用促進を図ることなどで、環境産業を支援しています。

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
脱炭素住宅整備助成事業	家庭の再生可能エネルギー導入を推進するため、住宅用太陽光発電システム、蓄電池システムまたはV2H機器、HEMSの設置費用の一部を助成しました。 R4実績（助成件数、助成金額）：340件、33,250千円	環境課
グリーン購入の推進	「グリーン購入基本方針」を定め、本市で行う環境に配慮した物品やサービス等の優先的な購入を推進しています。	環境課

3. 快適な都市環境の創出

【目標】潤いと安らぎを与える快適な都市環境を創出します。

環境に配慮したまちづくりを推進し、潤いのある都市環境を創造するために、市民や事業者、関係機関等と連携を図っています。

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
ムクドリ・カラス対策事業	ムクドリ飛来対策用のLED照明を導入し、地元町会等と連携し追い払いを実施しました。また、カラス対策では、音声再生装置を駅前で2台、パセオ通りで3台使用しました。	環境課
交通安全施設整備事業	より安全でゆとりのある歩道空間の確保や歩道の段差解消などの道路整備や修繕を行いました。 R4整備路線数：6路線	道路保全課 道路建設課

4. 環境教育・環境学習の推進

【目標】環境教育・環境学習の推進を図り、市民、事業者の主体的な環境保全への取組を促進します。

市民や事業者に対する環境教育・環境学習の推進するため、環境に関する情報提供のほか場所や機会の充実を図っています。

(1) ふくしまエコ探検隊

市内の小学4～6年生を対象に「ふくしまエコ探検隊」を結成し、野外活動や施設見学などの体験を通して、福島市の身近な環境について学習しています。カリキュラムの作成や学習会の実施にあたり、福島大学の協力を得ています。

令和4年度は、「福島市と災害ー今までとこれからー」をテーマに隊員27名で災害に強い住宅の見学など全7回の活動を行いました。



免震体験をする児童

(2) 環境副読本「わたしたちの福島」

身近な福島市の環境を題材とした環境副読本「わたしたちの福島」を小学校新4年生向けに作成し、環境学習の一助として活用してもらい、環境教育の推進を図っています。

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
もったいない実践講座	地球温暖化対策として、各家庭や職場でできる省エネ・省資源の取り組みの実践を促すため、マイ箸作りなどの家庭向け講座を実施しました。 R4実績：開催数6回、参加者数164名	環境課

5. 環境保全活動の推進

【目標】各主体の役割に応じた環境保全活動を推進します。

一人ひとりの環境保全の取組を推進するとともに、地域における環境美化活動を推進します。

(1) 地域環境保全功績者表彰

10月に開催された「2022 ふくしま環境フェスタ」において、環境保全に関し、顕著な功績があった個人や団体等を表彰しました。令和4年度は、個人3件、団体5件を表彰しました。

(2) ポイ捨てのない美しいまちづくり推進事業

市民との協働により、ポイ捨てを防止し、ごみのない美しいまちづくりを推進するため、モデル地区の指定を行っています。

令和4年度は、昨年度から引き続き18地区が指定されています。



令和4年度地域環境保全功績者表彰の受賞者

6. パートナーシップによるネットワーク形成の推進

【目標】 市民・事業者・市等が環境活動に共創して取り組むため、ネットワーク形成の推進を図ります。

(1) E-ACTふくしま（ふくしま環境基本計画推進協議会）

「E-ACTふくしま」は、令和3年2月に策定した「福島市環境基本計画」及び「福島市脱炭素社会実現実行計画」の推進母体として、環境の観点からSDGsにもつながる取り組みを実行していく、市が事務局を務める協議会です。学校、企業など様々な立場から計20の団体によって構成され、毎年開催している啓発イベント「ふくしま環境フェスタ」などを通じて、幅広い世代のみなさんに環境保全の重要性を伝えています。

令和4年度には、脱炭素化に向けた取り組みやごみの減量化などを促すため、環境に関する内容を広く発信するポータルサイト「ふくエコ」を新たに開設しました。

(2) 福島市水素社会実現推進協議会

事業者や行政など16名の委員により構成されており、水素社会の実現に向けた情報収集や意見交換を行うとともに、イベント等を通じて水素エネルギーの普及・啓発を行っています。

【主な取組】

取組名	取組内容等	担当課
ふくしま環境フェスタ	「みんなでつくろう 持続可能な未来」をテーマに、地球温暖化防止や再生可能エネルギー等について普及啓発を行いました。 R4実績（来場者数）：1,052名	環境課
水源保全活動	緑豊かな水源の森を育てるため、摺上川ダム上流の清掃や植林地帯の手入れ等を実施する市民ボランティアに対し補助金を交付しました。 R4実績（補助件数）：1件	水道局 営業企画課

【進行管理指標】

	基準値	実績値	目標値		令和4年度 目標に対する 進捗率	評価
	令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和7年度		
景観形成に関するまちづくりアドバイザー派遣回数（累計）	9回	9回	11回	14回	0%	D
市指定文化財指定件数	74件	74件	74件	75件	100%	A
市役所のグリーン購入率	84.2%	87.4% (令和3実績)	毎年90%以上		55%	D
生垣設置事業補助対象延長（累計）	6,819m	6,959m	7,629m	8,845m	17%	D
環境に関する出前講座開催数	22回	70回（累計） ※令和3～4年度	60回（累計） ※令和3～4年度	150回（累計） 年間30回以上	100%	A
環境に関するイベント等の来場者数	1,605人	4,798人（累計） ※令和3～4年度	3,400人（累計） ※令和3～4年度	8,500人（累計） 年間1,700人以上	100%	A
「ふくしまきれいにし隊」の登録数	239団体	242団体	263団体	300団体	13%	D
環境推進に関する協議会等に参加する団体の数	13団体	20団体	15団体	20団体	100%	A

【関連するSDGsのゴール】

